

東京建物語 ～あゆみと強み～

東京建物は、様々な先駆的な取り組みにチャレンジし、125年以上にわたる価値創造の積み重ねの中で、3つの強みを磨き上げてきました。

1896年創業

- ・旧安田財閥の創始者・安田善次郎が不動産取引の近代化と市街地開発の推進を志し、「東京建物株式会社」を設立
- ・日本で最も歴史ある総合不動産会社



創業当時の社屋



安田 善次郎

1946年～

戦後復興・高度経済成長とともにビル・住宅事業を拡大

第二次世界大戦後の復興需要を背景に、業績を伸長。高度経済成長期には、都市部の深刻な住宅不足、職住近接の需要の高まりを背景に、本格的にマンション事業へ進出。良質で適正な価格のマンション供給により、顧客からの支持を獲得。都心部への都市機能の集約に伴う需要の増大に対応して、オフィスビルの開発にも注力。



当社が初めて手がけた
分譲マンション
「藤沢マンション」



当社の知名度向上と業容
拡大に大きく貢献した
「新宿センタービル」

1990年～

グループ総合力を活かした差別化への挑戦

バブル崩壊後、免震マンション・定借マンションの企画、再開発事業への積極的な参画など、事業環境の変化に柔軟に対応。1998年にはSPC法を活用した日本初の不動産の証券化を実現するなど、不動産投資市場へ積極的に参入。2003年には分譲マンションブランドを「Brillia」に統一し、2004年には業界初の取り組みとして建築現場見学会を開始。ビル事業において、難易度の高い複合再開発事業やPFI事業を相次ぎ成功させ、総合不動産デベロッパーとして飛躍的に成長。

「Brillia」の第1弾
として販売した
「Brillia 調布国領」



官民協働の先駆的
大規模再開発・PFI事業
「霞が関コモンゲート」



2010年～

付加価値を創出する未来につながるまちづくりの実践

蓄積されたノウハウを活かして、さらに大規模かつ付加価値の創出が求められる再開発事業を積極展開。リーマンショック後は損失を計上したものの、資産の一部売却などにより財務体質の強化を実現。引き続き複数の大規模再開発事業への参画を決定するとともに、物流施設や商業施設・ホテルなどの取得により、多様かつ良質な不動産ストックの拡大を実現。



最新鋭の環境配慮型
複合ビル
「東京スクエアガーデン」



日本初の自治体本庁舎
一体の超高層マンション
プロジェクト
「Brillia Tower 池袋」

2020年～

「場の価値」「体験価値」の最大化を目指す

2020年からは、2030年を見据えた長期ビジョンとして「次世代デベロッパーへ」を公表し、「社会課題の解決」と「企業としての成長」のより高い次元での両立を志向。サステナビリティ経営の高度化を推進し、当社グループのマテリアリティ（重要課題）を踏まえてサステナブルで高付加価値なまちづくりを推進中。

日本初、
「フォーシーズンズホテル」
と一体となった超高層
プライベートレジデンス
「Brillia Tower 堂島」



撮影：ナカサアンドパートナーズ

当社の旧本社ビルを
含む大規模複合再開発
事業
「TOFROM YAESU」



128年にわたる価値創造の積み重ねで
築き上げてきた東京建物グループの

3つの強み

1

地域の新たな魅力を引き出す「不易流行」のまちづくり

エリアのイメージを変えた
「職」「住」「遊」の複合再開発



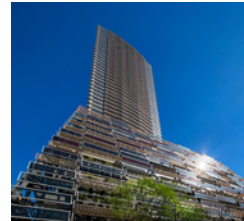
olinas (錦糸町)

公園と一体となったまちづくり
緑の中での新しいワークスタイルを提案



中野セントラルパーク

「消滅可能性都市から持続発展都市へ」
地域の文化資産を活かし、まちづくりを通じて社会課題を解決



Brillia Tower 池袋



Hareza 池袋

東京駅周辺の八重洲・日本橋・京橋 (YNK) エリアで、
「まちの住民」として複数の大規模再開発を推進



TOFROM YAESU



呉服橋プロジェクト



京橋三丁目プロジェクト

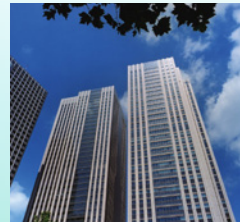
2

革新に挑み、未来を切り拓く「進取の精神」

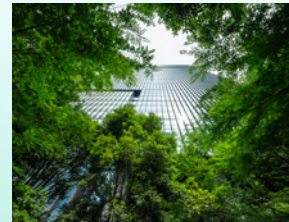
日本初のSPC法を活用した
不動産証券化の実現



霞が関コモンゲート
中央官庁初のPFI事業



大手町タワー
都市と自然の再生の両立



3

時代の変化を捉えた柔軟かつ俊敏な適応力

従来のオフィス・住宅が中心の事業ポートフォリオから、商業施設、ホテル、物流施設など、
環境変化に応じてアセットタイプを多様化し、短期間で業容を拡大



128年にわたり培った信頼・実績・ノウハウを活かし、
「場の価値」「体験価値」を最大化